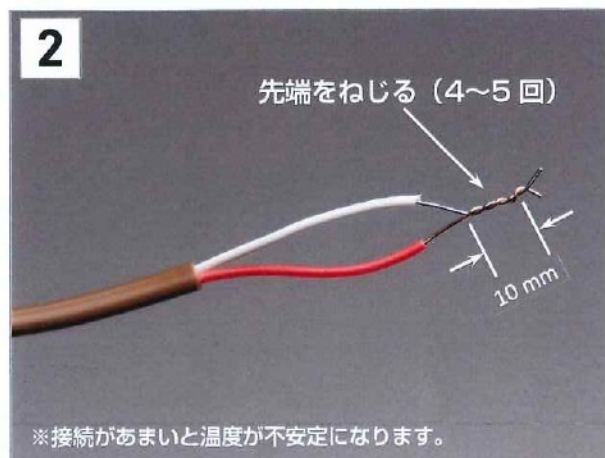


ワンタッチコネクター T型熱電対用中継ケーブルの利用方法

- T型被覆熱電対センサー (φ0.32×長さ 100m) を用途に応じた長さに切ってご利用できます。
- コンクリート内部の温度測定や大気中の温度測定に使用可能です。

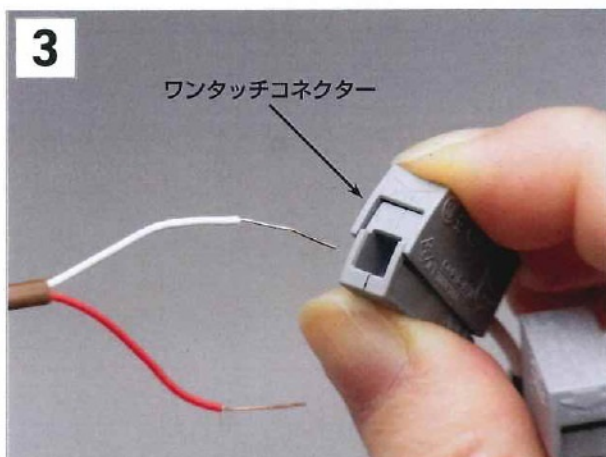


必要な長さのケーブルをカットします。

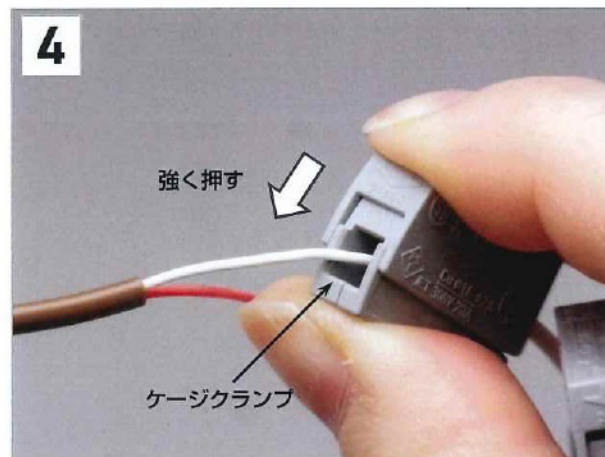


※接続があまいと温度が不安定になります。

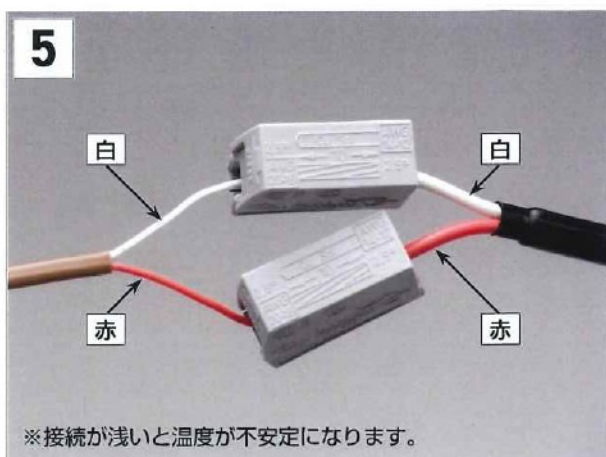
ケーブル先端の外装被覆を剥ぎ取ります。さらに内装被覆(赤・白)を剥ぎ、先端を4~5回程度ねじります。これが温度センサーになり、接点部で温度計測を行います。



反対側のケーブル先端も同様に、外装被覆と内装被覆を剥いでリード線を出し、ワンタッチコネクターに接続します。

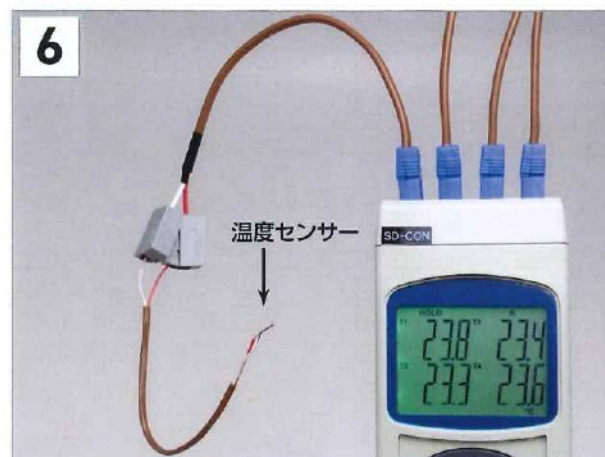


矢印の方向にコネクターを押しながら、ケージクランプ側に線が突き当たるまで差し込みます。コネクターを離すとスプリングが閉じて結線されます。



※接続が浅いと温度が不安定になります。

リード線の色と同じ色の中継ケーブルにつなぎます。色が異なる線同士を繋ぐと正確な測定ができません。



中継ケーブルを温度計に接続し、正しく結線できているか確認します。温度が不安定になる場合は、接続し直してください。